



発達支援課マスコット  
のびるん

～子どもの育ちを応援する情報を発信～

# のびのび通信



発達支援課マスコット  
はあとん



新年度が始まって、1か月あまりがたちましたね。発達支援課発行の『のびのび通信』も3年目を迎えました。今年度も隔月（奇数月）で発行します。この通信が、子どもの育ちを応援する情報として参考になったり、『発達支援』を知るきっかけとなったりするようと思っています。

甲賀市発達支援課 R4.5（隔月発行）

## 言語聴覚士さんに質問！ 最近、子どもがどもっているようなのですが…。

ことばが**ども**ることを『**吃音**』<sup>きつおん</sup>といいます。

音の繰り返し 「こ、こ、こ、これ」

音の引き伸ばし 「こーーーれ」

音のつまり 「(つまって声が出ない) …これ」

吃音は、ことばをたくさん獲得する時期である**2～4歳**で始まる 경우가多く、**20人に1人程度**で発症します。音を繰り返したり、つまりながら話したりすることは、ことばの発達途上にある幼児期にはよく見られることで、**子どもの性格や、親の育て方が発症の原因ではありません**。発症後、3年以内で6～8割は自然回復すると言われています。

ただ、頻繁につまったり、苦しそうにしたりすることがあれば、楽に話せるようにしてあげたいものですね。吃音かな？と気になったら、すぐに役立つ関わり方をお伝えします。参考文献：「小児吃音臨床のエッセンス」菊池良和 学苑社

話し方のアドバイスや、言い直しをさせずに、話の内容に耳を傾けましょう

子どもの様子から思わず、「ゆっくりでいいよ」「落ち着いて」「もう1回言って」という言葉をかけがちですが、実は**子どもにとっては話し方をコントロールすることはとても難しいこと**です。

また、言い直しを求めたり、「〇〇ってことね」等、ことばの先取りをしたりすると、子どもは話すことが楽しくなくなり、自分の話し方は『ダメ』な話し方だと思ったりすることもあります。

「話を聴いてもらっている」「自分はこのままでいいんだ」と子どもが思えることが大切です。大人は、**目を合わせたり、うなずいたりして、ゆっくりしたテンポを心がけるだけでも十分**です。



## 質問の数を減らすことや、答えやすい質問にしましょう

子どもは質問に答えるより、**自分の考えを表現するほうがずっと自由に話せます**。質問する時は、「はいーいいえ」で答えられる言い方（例「今日はボール遊びをした？」）や、**一言で答えられる質問**を心がけましょう。



### お知らせ

「思春期の子どもに関わり方」動画（①～③）をアップしました。

特に③は視覚的な方法の実践動画になっており、おすすめです。



甲賀市秘書広報課 YouTubeチャンネルで配信

次回は、7月号で会おうね！

